



みんな友だち 神科っ子

令和2年 一学期終業式 校長講話（放送） 「雲外蒼天」

全校のみなさん、おはようございます。今日は8月7日、長い1学期最後の日です。

今、みなさんはどんな気持ちで教室にいますか？

今年は1月から新型コロナウイルス感染症対応で、世の中の誰にとっても、今まで経験したことのない出来事が次から次へと起きました。学校でも、入学式から3日後に休校となり、それが2カ月も続き、6月から通常登校となりました。ですが私たちの生活は、マスク、手洗い、3密を避けるなど、新しい約束事が増え、お休みを取り戻すために1学期も約2週間伸びました。

そして今日、やっと、1学期が終わります。感染予防については気を抜いてはいけませんが、『ほっと』したという気持ちの人がたくさんいると思います。みなさんの『ほっと』の裏側には、きっとたくさんの不安やイライラなどのストレスがあったことと思います。あらためて、新型コロナウイルスに負けないみなさんの明るさ、勇気、元気、がまん強さに『ありがとう』を言います。

さて、ここで、おはようロボット「神ちゃん」からのクイズです。

神ちゃんの右側に写っているお相撲さんは、誰だか分かりますか？

そうです。長野県出身の「御嶽海関」です。今場所は、とてもおいしいところで負けてしまいました。

その御嶽海が、長野県の子どもたちに向けてメッセージを送ってくれました。校長室前に掲示してあるのを見た人もいることでしょう。それは、「雲外蒼天」という言葉です。「うんがいそうてん」とは、「今は苦しいことや辛いことなど暗い雲の中だけど、必ずその先にはすばらしい青空が広がっている。」という意味です。

実際にそのことを私が感じた話をします。

5年ほど前、御座山（おぐらさん）という標高2000mほどの山に登りました。私は、あまり山登りは好きではないのですが、学校で行くための下見だから仕方ありません。一緒に登った他の先生に、弱音を聞かれないようにやせがまんをしながら登りました。やっとたどり着いた頂上は、岩場だらけのかなり怖い場所ですが、そこからは、普段、下から見上げるしかなかった雲が、目と同じ高さに見えて、しかも、ものすごい勢いで流れているのです。

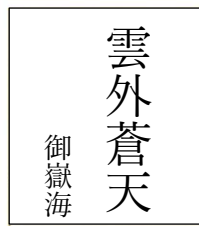
今年のようにとても長い梅雨が続くと、毎日毎日、薄暗い雲がたちこめて、カラッと晴れた青空がどこかに行ってしまったように思えます。でも、雲ってというのは、大きな大きな青空の中のほんの一部分でしかない、そんなことをこの御座山登山で私は感じました。

そのことを、御嶽海の「雲外蒼天」で、思い出しました。

これからもきっと、曇りや雨の日もあると思います。でも、必ず、カラッと晴れた青空がその向こうには広がっています。

明日から夏休みです。夏休みも短いですが、時間を大切に頑張って、上手に気分転換をしてきてください。

また休み明け、元気なみなさんと会える日を楽しみにしています。



うんがい そうてん
雲をつきぬけたその先には
青空がひろがっている

